

## 平成29年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年4月5日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9414 URL <http://www.bs11.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 齋藤 知久  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営戦略局長 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900  
 四半期報告書提出予定日 平成29年4月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年8月期第2四半期の業績(平成28年9月1日～平成29年2月28日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第2四半期	5,408	10.4	1,189	0.4	1,190	0.4	813	1.4
28年8月期第2四半期	4,898	12.5	1,184	6.4	1,185	8.1	802	13.2
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年8月期第2四半期	45.69		—					
28年8月期第2四半期	45.07		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第2四半期	16,171	14,791	91.5
28年8月期	15,980	14,280	89.4

(参考) 自己資本 29年8月期第2四半期 14,791百万円 28年8月期 14,280百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期	—	0.00	—	17.00	17.00
29年8月期	—	0.00	—	—	—
29年8月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成29年8月期の業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	17.5	2,200	4.3	2,200	2.9	1,460	0.0	82.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年8月期2Q	17,802,832株	28年8月期	17,802,832株
29年8月期2Q	94株	28年8月期	94株
29年8月期2Q	17,802,738株	28年8月期2Q	17,802,738株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行による金融緩和策などを背景に、企業の設備投資や雇用・所得環境に改善が見られ、景気は穏やかな回復基調となりました。しかしながら、中国を始めとする新興国経済の停滞や米国経済における新政権の政策動向と今後の国際市場へ及ぼす影響など、不安定な海外要因等により依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の71.7%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で3.9%の伸長、中でもBS放送の広告費は、前年比で4.0%増と堅調に推移しております（「2016日本の広告費」(株)電通調べ）。

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として、「豊かで癒される教養・娯楽番組と中立公正な報道・情報番組を発信し『価値ある時間』を約束します」との経営ビジョンに基づき、良質な番組制作に引き続き邁進いたしました。

平成28年10月には、良質な番組の制作による視聴世帯数増加を目的として、別所哲也氏をメインキャスターに、今起きていることを分かりやすく「知りたい」に応える報道番組『報道ライブINSIDEOUT』、1200年の歴史を誇る京都を、四季折々に変化する風景や伝統文化を交えながらお届けする『京都・国宝浪漫』、プロレスの面白さや選手の情報を伝える『全日本プロレスイレブン』を放送するとともに、生活に役立つ耳よりで“ホットな情報”を紹介する情報番組『耳より! Bizトレンド』の放送を開始し、5分ミニ枠番組の強化をいたしました。さらに、スポーツコンテンツのより一層の強化を図るため、『平成28年度全日本学生柔道体重別選手権大会』、『BS11ソフトボール中継 日本女子ソフトボールリーグ』を放送いたしました。その他にも人気俳優の高橋英樹氏が司会を務め、意外と知らない歴史の新事実や目からウロコの歴史雑学など、歴史をクイズで深く学べる『高橋英樹のクイズ! なるほど歴史館』を放送、特別番組にも積極的に取り組みました。

また、アニメファンから根強い人気を誇る『ANIME+』において、高校サッカー部の汗と涙の友情物語『DAYS』、海上都市を舞台にブルーマーメイドを目指す女生徒たちの活躍を描く『ハイスクール・フリート』を放送いたしました。さらに人気の海外ドラマ『プリズン・ブレイク シーズン2』を放送、話題の作品にこだわったアニメ、ドラマ編成等が、売上増加に寄与いたしました。

費用面につきましては、引き続き番組関連費用等の効率的なコントロールに努めながら、番組宣伝のための施策として、全国紙・地方紙への広告出稿を戦略的に実施したほか、首都圏主要駅への看板掲出など、様々な媒体を活用した広告宣伝施策を実施いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は5,408,094千円（前年同期比10.4%増加）となりました。営業利益は1,189,578千円（前年同期比0.4%増加）、経常利益は1,190,330千円（前年同期比0.4%増加）、四半期純利益は813,396千円（前年同期比1.4%増加）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ191,181千円増加し、16,171,660千円（前事業年度末比1.2%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が331,320千円増加したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ319,568千円減少し、1,380,039千円（前事業年度末比18.8%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が76,986千円、流動負債のその他が193,040千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ510,749千円増加し、14,791,620千円（前事業年度末比3.6%増加）となりました。この要因は、利益剰余金が前事業年度の期末配当302,646千円の支払により減少したものの、四半期純利益813,396千円の計上によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ331,320千円増加し、当第2四半期会計期間末には7,224,870千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、693,330千円(前年同期は705,280千円の獲得)となりました。これは主に法人税等の支払額460,869千円があったものの、税引前四半期純利益1,190,330千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、50,512千円(前年同期は530,337千円の使用)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出43,262千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、311,497千円(前年同期は275,500千円の使用)となりました。これは主に、配当金の支払額302,417千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月期の業績予想につきましては、平成28年10月7日付の「平成28年8月期決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,893,550	7,224,870
受取手形及び売掛金	1,838,346	1,838,840
番組勘定	127,798	48,835
その他	134,031	123,241
貸倒引当金	△100	△100
流動資産合計	8,993,626	9,235,688
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,414,076	2,377,400
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	317,375	299,243
有形固定資産合計	6,766,208	6,711,401
無形固定資産	9,402	7,380
投資その他の資産	211,240	217,190
固定資産合計	6,986,852	6,935,972
資産合計	15,980,479	16,171,660
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	364,440	312,715
未払法人税等	487,847	410,861
その他	788,233	595,193
流動負債合計	1,640,521	1,318,769
固定負債		
退職給付引当金	42,381	46,606
その他	16,706	14,663
固定負債合計	59,087	61,270
負債合計	1,699,608	1,380,039
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,183,198	4,183,198
資本剰余金	3,516,989	3,516,989
利益剰余金	6,580,778	7,091,528
自己株式	△96	△96
株主資本合計	14,280,870	14,791,620
純資産合計	14,280,870	14,791,620
負債純資産合計	15,980,479	16,171,660

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
売上高	4,898,601	5,408,094
売上原価	2,181,182	2,558,527
売上総利益	2,717,418	2,849,567
販売費及び一般管理費	1,532,455	1,659,989
営業利益	1,184,963	1,189,578
営業外収益		
受取利息	719	33
その他	415	1,627
営業外収益合計	1,134	1,661
営業外費用		
支払利息	475	739
その他	—	170
営業外費用合計	475	909
経常利益	1,185,622	1,190,330
税引前四半期純利益	1,185,622	1,190,330
法人税、住民税及び事業税	367,770	372,257
法人税等調整額	15,438	4,676
法人税等合計	383,208	376,933
四半期純利益	802,413	813,396

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	1,185,622	1,190,330
減価償却費	119,214	111,590
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,156	4,225
受取利息及び受取配当金	△719	△33
支払利息	475	739
売上債権の増減額(△は増加)	△51,918	△493
たな卸資産の増減額(△は増加)	52,776	78,962
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,740	△51,725
未払金の増減額(△は減少)	△87,354	△170,830
未払費用の増減額(△は減少)	6,572	22,379
未払消費税等の増減額(△は減少)	△36,964	△35,426
その他	11,256	4,589
小計	1,186,377	1,154,308
利息及び配当金の受取額	750	33
利息の支払額	△504	△142
法人税等の支払額	△481,342	△460,869
営業活動によるキャッシュ・フロー	705,280	693,330
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△537,613	△43,262
無形固定資産の取得による支出	△10,810	△289
貸付金の回収による収入	25,000	—
その他	△6,913	△6,961
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530,337	△50,512
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△8,725	△9,079
配当金の支払額	△266,774	△302,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	△275,500	△311,497
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△100,557	331,320
現金及び現金同等物の期首残高	6,131,997	6,893,550
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,031,440	7,224,870

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。